

年頭所感

令和七年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今、私たちを取り巻く環境は、世界的な気候変動を抑制するカーボンニュートラル（脱炭素）の動き、日本円の為替レートや海外情勢の変化による資材価格の高騰、少子高齢化が原因で発生する技術者不足、労働環境を見直す働き方改革など、多くの課題がより顕在化しています。

一方、政府や行政、企業においてはそれぞれの立場で、いよいよ本格的に「デジタル化」に取り組み始めたように感じます。それは、データの共用・活用によるDX (Digital Transformation) の推進であり、AIデータや生成AIをあらゆるシーンに取り込み、業務の効率化のみならず事業の創造、イノベーションに繋がる領域にも導入するなど、社会を大きく変革させる動きが見えてきています。

このような中、私たち建築設計界も社会環境の変化や社会的ニーズに即した業務対応を着実に進めて行かねばならないと感じております。

当組合としても昨年に引き続き、脱炭素社会の実現に資する建築物の木造・木質化の研究と実践、ZEB (Net Zero Energy Building) ・ZEH (Net Zero Energy House) への積極的な取組み、DXの推進に資するBIM活用による設計環境の効率化と新たな設計手法の創造など、求められる社会的責任と社会のニーズに対応できる研修と設計を実践してまいります。

結びに、皆様方のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げ、また当組合の事業への更なるご支援とご鞭撻をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和七年一月

福島県建築設計協同組合 代表理事 鈴木宏幸